

亶理町民生委員児童委員協議会

～東日本大震災における被災地亶理町の

民生委員・児童委員の活動を振り返る～

(平成 25 年 5 月 17 日掲載記事)

(1) 亶理町の概要と被災状況について

人口約 3 万 5,000 人、世帯数 1 万 1,000 戸、面積は約 73 平方kmの亶理町は、宮城県の湘南とも言われ、温暖で農業・漁業が盛んであり、かつ JR で仙台駅まで 30 分と近く通勤通学に便利な町です。役場は亶理地区にありますが、荒浜地区、吉田地区、逢隈地区には各支所があり、昭和 30 年代の町村合併のなごりを留めています。

津波による浸水区域は町の面積の半分に及びました。荒浜と吉田の海岸地区での被害は甚大で、民生委員はそれぞれ 1 名ずつがひとり暮らし高齢者を助けに行き、犠牲となりました。町全体で死者は 306 名で、沿岸部に近い行政区では死亡率が 6 %を超えました。

(2) 震災後の活動～レッツゴーわたり～

逢隈地区、亶理地区は比較的被害が少なかったもので、各委員は会長の指示のもと、発災後 4 日目には避難所に向かいました。各小中学校が避難所として多くの人々を受け入れ、婦人団体や民生委員・児童委員がおにぎりを作って配り、またトイレの清掃等も行ないました。励ましの声かけや見守りなどできる範囲で皆一生懸命でした。仮設住宅が次々に建ち、4 月末から入所ができるようになったことで避難所は統合整理され、民生委員・児童委員による避難所の支援は 6 月中旬で終了しました。

町の施設は役場をはじめ多くが震災の影響で使用が難しく、震災直後は新年度の民児協総会も開催できずにいましたが、話し合いの場を持った際、ある委員から、被災地を助けたいという友人や知人からの支援物資が届いているので被災した方々に使っていただきたい、との提案がありました。そこで、町からテントやプレハブを借り、委員が当番制で衣類や日用品等の支援物資を被災者に配布する活動を始めました。4 月末から 7 月まで、火曜日と木曜日以外に実施していましたが、委員だけの運営が困難となり、委員の友人や知人に声をかけ、スタッフとしてご協力いただくことになり、その会を「レッツゴーわたり」と命名しました。支援物資やスタッフは亶理町内にとどまらず、岩沼市や仙台市からもご協力いただきました。

喫茶コーナーを担当した方は聴き上手の方で、被災者の気持ちに寄り添い、

素晴らしい支援者だったと感じました。また、ある日、中古の自転車をトラックに積んだ自転車販売組合の方が来られ、被災者に声をかけて、その方に合わせて組み立てた自転車を渡していました。受け取る人も渡す人も笑顔、あの光景は今もまぶたに焼きついています。

津波の被害で家が流されすべてを失った人々は町民の30%にも及びました。この震災では、被災した町の民生委員・児童委員として学んだこともあります。困った時には声をあげて「助けて」と発信する大切さを感じました。他県からの支援に手書きでのお礼状を送った委員もいますが、自分でできる小さなことからでも実行する委員でありたいと感じています。



レッツゴーわたりの様子

(3) 終わりに

震災から2年が経過し、定例会等の民児協活動は震災前と同様に戻りつつあります。しかしながら、住民や地域社会が抱える課題はますます複雑、多岐にわたっています。支援する側である民生委員・児童委員自身も被災し、町内外に転居している方も少なくありません。それでも仮設住宅等に入居している被災者に対しては、顔見知りである従前の地区担当の民生委員・児童委員が対応したほうが被災者も安心すると考え、各委員とも従来 of 担当地区のまま対応しています。移動の負担、住民の不安を受け止める心の負担は増大していますが、委員全員が強い使命感のもと活動しています。

最後になりましたが、全国の委員の皆さまからたくさんのご支援、ご協力をいただいたことに、心から感謝いたします。